

72
7

伊藤統監公題字
福本日南先生序

筑前琵琶歌

今村外國著

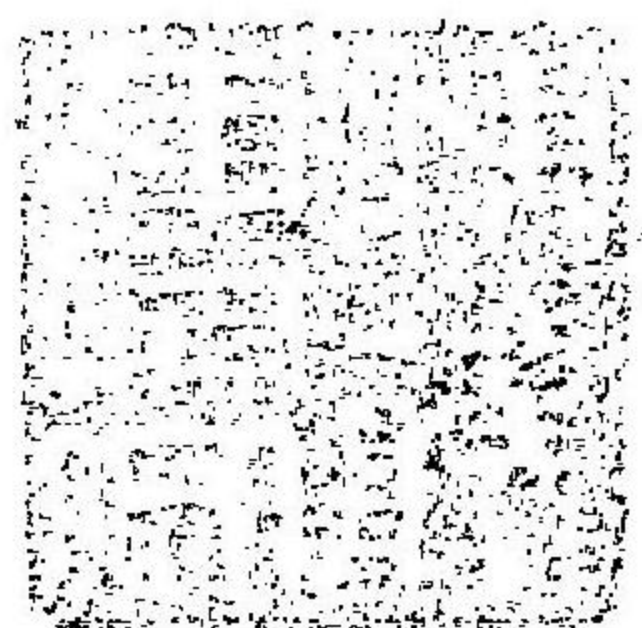
258
53

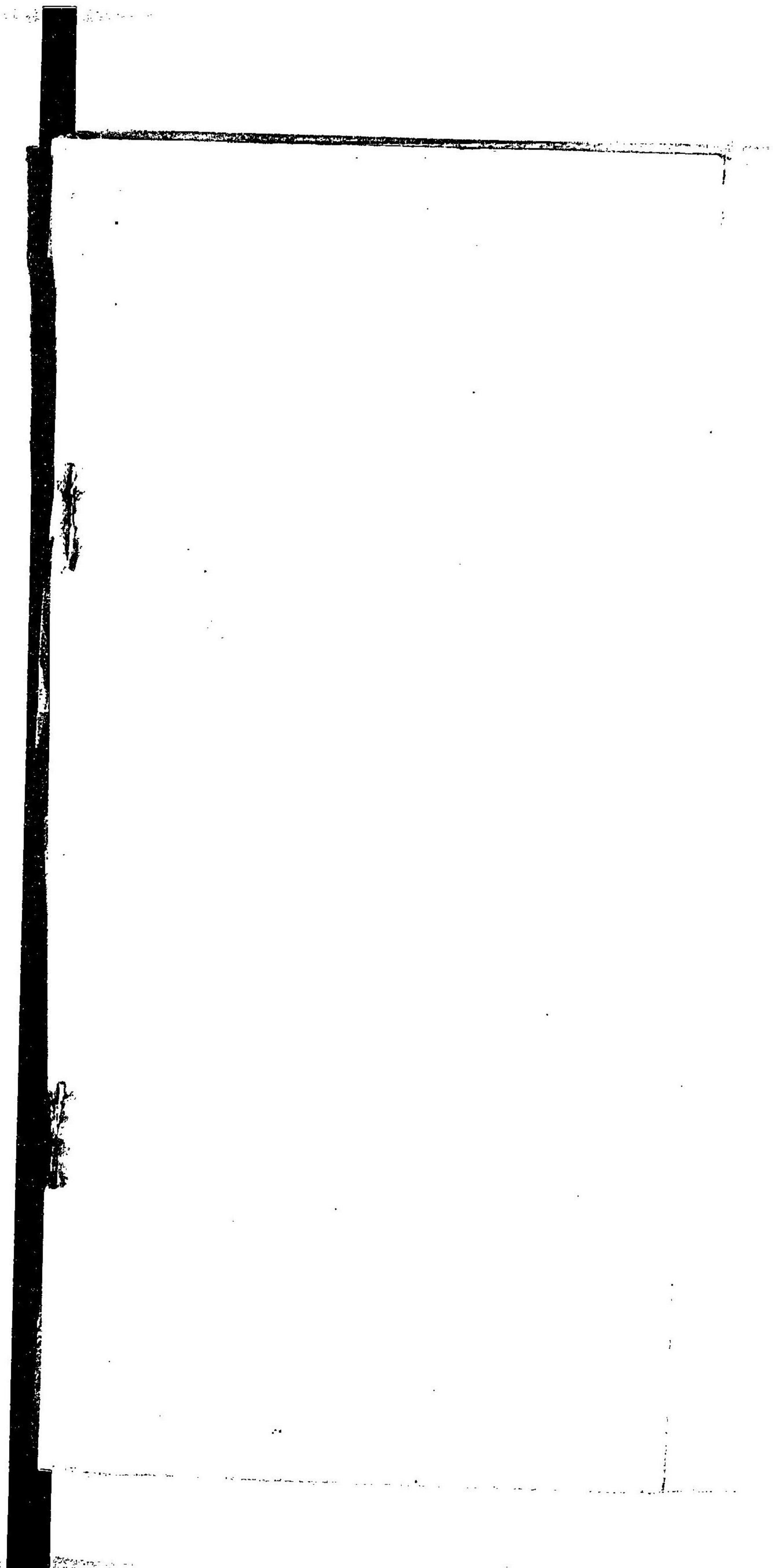
疾徐咸
可聞



明治丙午仲春

滄浪釣徒博文





欠

MISSING

筑紫名所

立昇る旭の光に青柳の
ひらきそめたる花の春
梢争ふ鳥さへも
千代と呼こそ目出度けれ
いびや遊ばん不知火の
海の中道末ながく

糸のみだれゝをさまりて
あしたゆうべに集ひ来て
我がすめらぎの大御世を
心つくしの名所はいづこ
結ぶ縁の糸ふりはえて

西に可也の嶺東には
綾にかしこき綾杉の
帆柱石のいそのかみ
ひかしを語る多々良濱
神の御前にぬかづけば
威稜はしるく今の世の
君が齡のそれに似て
弘安四年の紀念とて
人皇九十一代の

(1110)
名に立花の山々ごぞる
香椎の宮居名鳥瀧
ふる事問へばさゝ波の
あゆみをこゝに箱崎の
社にかけし四ツ文字の
現に見るもおほけなや
千代の松原わけゆけば
蒼空高く聳ゆるは
をりるの君の御聖像

徳は孤ならで隣へは
高祖日蓮上人と
仰がれ給ふ尊とよよ
濡衣塚の濡衣
石堂橋をこゆるぎの
歌舞の菩薩が色くらべ
廓の言葉は鄙びても
たてひく三味の撥音さえて
女にふたつない證の

末法有縁の大導師
圓扇太鼓の音高く
神の操の末かたき
磯邊に並ぶ高樓は
馬鹿らしうおすありんすの
義理と張との二筋三筋
勤する身も素人も
苦勞も戀の樂しみと

辛氣辛苦を襲ね着の
きぬくををしむ鐘の聲
つゞく軒端の賑合に
知るも知らぬもふり合す
百千の船の出つ入つ
沖の鷗か舞鶴の
かすみの奥は知らねども
しなひも長き藤波は
杖をひけるも最多し』

花の菴の柳町
鳥のはかたの一百八町
ゆきかふ人の絶間なく
袖の凄の春の海
花紙ほどの白帆の影は
山は彌生の花の雲
咲も残らず散りもせず
荒津の岸の名所とて

(一五二)

烟る窟の山たかみ
それかと問へばこなたには
中を流るゝ灘の川は
好た同士がむつまじく
取かはしつゝ夕涼み
一夜の松は幾世経て
幾世をこゝに經たりけん
榮えゆくこそ目出度けれ』

月に名を得し若杉を
うしろ姿の脊振山
博多絞の派手模様
口三味線の合の手を
水底清くすみ吉の
其名や負し名に負て
神の威徳に枝と葉の

(一五三)

花ふぶま

世の中に
 人の心はいかにして
 花なれや开も花なれや
 凱歌をあげて歸り來る
 道もせにちる花の雪
 榮華の夢の覺果て

絶て櫻のなかりせば
 長閑かるべき世の中は
 そのかみ問へば陸奥に
 勿來の關の春のくれ
 霞も匂ふ風情かな
 蝶の翼もしはれつゝ

夜半の扇をおとづれて
 昔ながらの花はあれど
 孤忠を聞えまつらんと
 筆に注ぎてかいつけし
 吉野の山の行く春や
 單身こゝに留まりて
 散しとぞ聞く主や誰れ
 遺訓を垂れて橘の
 世々に流れて彌まざる

をしむ名残のさゝ波や
 月はおぼるの院の庄
 樹を削りつゝ心血を
 その詩の聲高き
 畏こそ君に代りては
 嵐の花の潔よく
 時は青葉の櫻井に
 香を浸したる湊川
 君が譽の目出度さよ

萬古かはらぬ敷島の
旭日に匂ふ山ざくら
散れるを愛る心こそ
寔に我が國の神髓なれ

(一五六)
大和心を人間は
散るを恐れぬ健氣と
寔に我が國の神髓なれ

富士山

治まる御代の例とて

波静かなる田子の浦

三保の松原すれぐに
往來ゆたけき眺かな
天津乙女が奏でたる
靈香四方に薫じたる
たゞ松風の聲ぞすむ
ふりさけ瞻れば是ぞこれ
神仙來り遊ぶ天半の嶺
高さを競ふ富士の山
餘所に見なして豈やと

並ぶ白帆の百千船
雲の通ひ路吹とちて
霓裳羽衣の駿河舞
耻をいづこと討ねれば
千鳥鷗の清見瀉
白扇倒に懸る千秋の雪
我が日の本の雲にも
穢土に荒へる雨風を
立てる姿の尊とさよ

廣き世界に山と云ふ
姿勢の君に及ぶもの
富士を不二とは書ならめ

山はあれども端殿の
何處にかあるさればこそ
實にも目出度き限りなり

(二五八)

筑前琵琶歌(終)

明治四十一年五月廿日印刷
明治四十一年五月廿五日發行

(定 價 金 港 拾 錢)

著作
所有

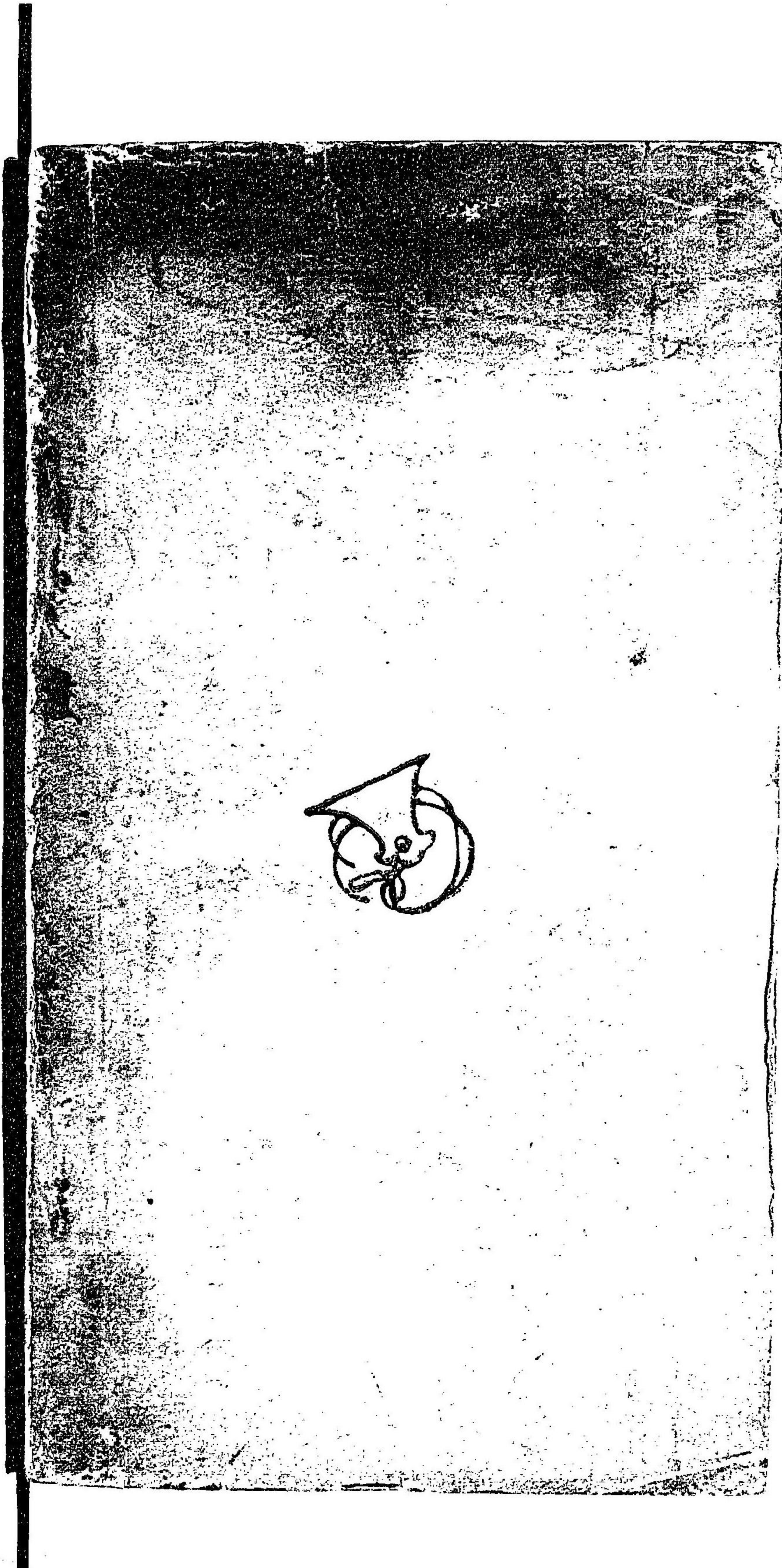
著作兼
發行者 今 村 外 國
印刷者 大 阪 市 西 區 江 戶 堀 北 通 四 丁 目 七 番 屋 敷
高 田 福 太 郎
印刷所 大 阪 市 西 區 立 賣 堀 南 通 貳 丁 目 三 五 番 邸
蒲 田 德 太 郎

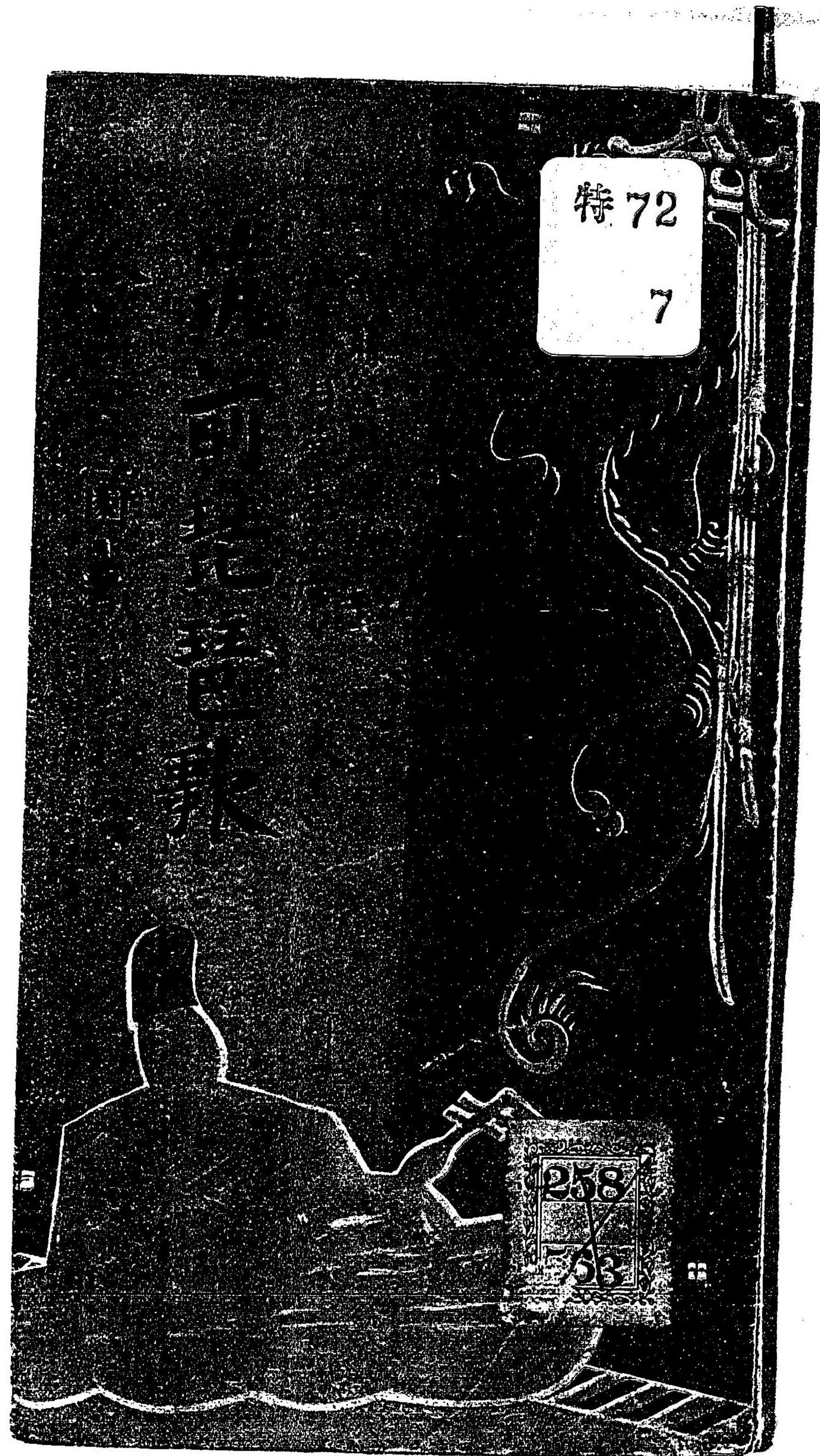
發賣所 大 阪 市 北 區 堂 島 中 一 丁 目 彰 文 館

258
563

筑前琵琶歌 第二輯 出版豫告

本輯の著者今村外園氏が筑前琵琶の作歌に堪能なるは既に世人の知る所なり而も研究に研究を重ねたる結果近作の歌は愈よ益す其妙境に進み「小楠公」「求女塚」「辨内侍」「本間資氏」「靜御前」「木村重成」の如き或ひは勇壯に或ひは麗艶に實に美文として百世に傳ふるに足る其他數十種を合して第二輯となし不日出版せられん筈なり茲に豫告して四絃界の君子が第一輯同様愛讀あらん事を乞ひ置く事爾り





特 72
7

301549-001-8

特72-7

筑前琵琶歌

今村外園 / 著

M41.5

CEJ-0001

LIBRARY OF THE UNIVERSITY OF TORONTO